

# 写真に見る

## 115年前の長崎

### 日露戦争時代

姫野 順一

□ 38完 □



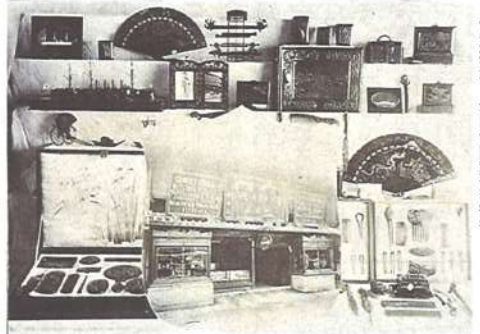
① 庄田平五郎旧蔵(つ甲アルバム(長崎外国語大所蔵)

## 二枝鼈甲美術店

写真①は、二枝鼈甲美術店(東浜町25)が、明治38(1905)年ごろ製作したつ甲アルバム。表装の「贈呈庄田君 長崎(剥落)有志者」の篆書には、三菱造船所を去る庄田平五郎所長への市民の感謝が込められている。

つ甲は、海亀の一種、タイマの甲を重ね、水と熱を加えて圧縮する工芸品である。つ甲細工は中国生まれで、正倉院(奈良市)の御物に見られるように歴史は古い。長崎にはポルトガル人から伝わり、元禄期(1688~1704年)に日本独自の技法が生み出され、高級な装飾品となった。

② 二枝鼈甲美術店の商品見本と店舗(竹下佳治撮影、長崎外国語大所蔵)



写真②は、写真師竹下佳治による店舗と商品紹介のコラージュである。建物正面部は明治のレトロ風。看板は博覧会の入賞メダルの下に「鼈甲細工所二枝商店」、軒屋根は「鼈甲象牙販売」と記され、ロシア語と英語も読める。

商品は、外国人好みの東洋趣味のデザインが多く、手鏡や櫛の入った化粧箱、簪や弁が入った髪結びセット、たばこケース、オリジナル、宝石箱、額縁、文庫箱、置物(扇子、軍艦、人力車)などが陳列されている。

手に営業が広がり、明治33(1900)年の「長崎県統計書」によれば、本田幾雄、田中辰之助、田中正夫、本田要造、矢野一、川端親雄、山本三太郎ら10人の職人が雇用されている。2代目の新三郎は青貝細工の螺鈿を得意とした。

大正の初め、櫛笄類儀式用1000円(今の300万円程度)、常用500円、普通品50~150円の記録がある。

# 独自技法で高級装飾品

(長崎外国語大学長)

この企画の過去の記事、写真は長崎外国語大のホームページ(<http://www.naasasaki.jp>)、[gaigo.ac.jp/recnas@newsjournal](mailto:gaigo.ac.jp/recnas@newsjournal)で見られます。



長崎外国語大のホームページにQRコード